

第 6 回 羽村市産業振興計画懇談会 会議録	
日 時	令和 3 年 11 月 12 日（金） 午前 10 時～午後 0 時 05 分
会 場	羽村市産業福祉センター 電腦会議室
出席者	会長 中庭光彦、副会長 梅津 潔 委員 林 聖子(リモート参加)、秋吉勝久、小島昌夫、宮川陽一、池田恒雄、大野英一、芳賀啓一、大谷 聡、山本貴彦、須崎数正、早野和則、青島利久、福田礼彦、北原耕一 事務局 産業環境部長、産業企画課長、産業企画係長、産業振興課長、商工観光係長
欠席者	矢部 要、木下智之、加藤芳秋、阿部慎也、清水亮一、新岡 健、久保田 聡
議 題	1 会長挨拶 2 議事 (1) 第 5 回産業振興計画懇談会会議録の確認について (2) 羽村市産業振興計画懇談会提言の骨子について 3 その他
傍聴者	なし
配布資料	・ 第 5 回羽村市産業振興計画懇談会 会議録（案） ・【資料 1】 課題のまとめとそこから導く方針 ・【資料 2】 提言に記載する産業振興の方向性
会議の内容	傍聴の確認 （事務局） 本日の会議には、傍聴希望者はいないことを報告する。 （会長） 傍聴希望者はいないとのことなので、早速、会議を始める。 1 会長挨拶 今回で第 6 回となる。本懇談会の提言書をまとめるため、今回は提言書の骨子を作り上げ、次回で提言書を決定することになる。これまでたくさんの意見をいただいたが、さらに議論を深めていけるよう、今回も活発な発言をお願いしたい。 2 議事 (1) 第 5 回産業振興計画懇談会会議録の確認について （会長） 早速議事を進めていく。議事の 1「第 5 回産業振興計画懇談会会議録の確認について」を議題とする。事務局から説明を求める。 （事務局） 第 5 回会議録は事前に配布しているが、会議直前となってしまった。確認が十分でない委員も多いと思われるので、修正等のご指摘は 11 月 18 日（木）までに事務局へお知らせいただくこととしたい。 (2) 羽村市産業振興計画懇談会提言の骨子について （会長） 続いて、議事の 2「羽村市産業振興計画懇談会 提言の骨子について」を議題とする。事務局からの説明を求める。 （事務局）【資料 3】【資料 4】 説明

課題解決以外に良いところを伸ばすべきといったご意見をいただいた。事務局では課題を挙げているが、そういった点にもご意見いただきたい。(会長) 議論に入る前に1点、事務局に質問する。資料1と2は、委員のこれまでの発言を整理してまとめた、提言書の方針を図にしたものと理解している。この後に作成する提言書には、これまで出された委員の具体的な意見が文言として記載されるのか。

(事務局) 次回の会議では、今回示したこの方針と、今日皆様からいただいたご意見を取りまとめて、文章にまとめて提言案を作成し、会議に諮りたいと考えている。

(会長) そうすると、今日はこの資料1と2についての議論ということになるか。これまでの委員の意見を踏まえているとのことだが、記載が抽象的で良く分からない、自分の発言がこの表現で正しいか、この部分をもっと強調して欲しいなど、いろいろあると思う。まず資料1について、ご意見をいただきたい。

(委員) 素朴な疑問だが、これは誰に対してのものなのか。それから目標の到達点について。羽村市はどこを目指すのか。

(会長) 事務局より回答をお願いします。

(事務局) 「誰に対して」という点は、計画本体では「事業者、産業の発展を目指していくために市がこういう支援策に取り組んでいく」という視点で記載したいと考えている。一方、提言に関しては、懇談会から「市に対してこんな方針で計画を策定して欲しい」という視点でまとめたいと考えている。提言の中には、到達点というような具体的な目標まで記載することは考えていない。目標の部分は計画本体に記載したいと考えている。

(会長) よろしいか。

(委員) 質問の仕方が良くなかった。工業者や農業者など、それぞれに提言していくということか。

(事務局) 「計画にこういう点を盛り込んで欲しい」「こういう方向性を踏まえて欲しい」「こういう施策はどうか」というような視点で、懇談会から市に対して提言をいただくということで、そのため今回この資料を示している。そのいただいた提言を基にして、こんな産業振興施策を実施したら良いのではないかとか、こんな方向性や目標を持って産業振興を推進していくのが良いのではないかと、計画に記載していくこととなる。提言の方向性としては、「懇談会から市」へということである。

(会長) 補足説明する。提言はあくまでも、市が作成する計画に「こういうことを盛り込んで貰いたい」という、懇談会としての要望のカタログのように考えていただければ良いと思う。前回までの議論も踏まえて、方針として一つにまとめているのが今回の資料ということ。この資料1・2と、これまでに出された皆様の意見が含まれた形で提言書は作られるはず。

(委員) 私は市民公募委員として、この会議に参加している。懇談会はもう5回開催されているが、その行先が見えていない。市民としては「暮らしやすい」「住みやすい」ことが最重要。市民の代表として、どうしたら良いか考えて今まで意見を出してきたが、その到達点というのはどこなのか。計画の対象として、きちんと市民のことも考えているのか疑問がある。

ターゲットを子どもにするとか、女性、男性、若者、高齢者など、明確に設定できないか。人生100年とか少子高齢化などというが、市もそう考えているのなら横文字が多すぎる。イノベーションだとかチャレンジだとか、高齢者にはよく分からない。

(会長) 計画の対象として工業者、商業者、農業者、観光者があることは分かる。市民はどうかということ記載がない。今のご意見は、市民がどう関わるのかということ強調してもらいたいということで良いか。大変大事な指摘だと思う。市民の立場については、今まで意見では出ているが、今のところ資料には記載されていない。市民の立場というのを、もう少し具体的にどうするのか、市民は何をすべきなのかということ提言書にきちんと入れるべきだということ明記しようということか。ただ、一方で、これは提言書であり、あくまでも要望である。実施する・しないの優先順位があるが、それに応えるかどうかは市の判断による。財政の面でも優先順位があり、どこまでできるのか・できないのかという判断もある。市とこの懇談会との二段構えの考え方になるので、今のご意見の、市民がどのように産業に関わるのかを明記してほしいということ、意見として提言書に残していくということが重要。

(委員) 考えは分かった。市から具体的な方向性が示されれば、もっと意見を出せると思う。

(会長) 提言書は次回に事務局から示されるので、きちんと反映されているかどうか、次回チェックしていくこととする。

(委員) 先程の意見にあった「市民の立場」について。市民というと消費者と事業者と両方いると思うが、産業振興計画では、事業者が中心になると思う。先程、会長から助言があったように、「観光」の下に「市民」とか、あるいは「まちづくり」とか、そういう形で入ると良いと思う。

資料2に記載のある長期総合計画の5つのコンセプトは、半分以上が消費者向けというか、市内在住者に対するコンセプトのように見えるが、それに対して資料1では、それが見えない。また、「懇談会での意見」の中に「ニューノーマルへの対応」「特色のある店づくり」などが記載されている。これらは既に巷で言われている内容なので、会議で意見として出たかもしれないが、我々としてはもう一段具体的に、「特色がある店づくり」とはどういう店なのか、ということキーワードとして入れたい。このレベルだと、もう資料を見ただけで「読むことないな」と評価されてしまう。もう少し議論を詰めて、キーワードにしていくべきと思う。

(会長) 実際の提言あるいは提言を踏まえた計画では、事業レベルは具体的なところまで出るはずで、今のご意見のように、抽象的では良くないというのは、確かにそのとおりだと私も思っている。ただ、実施するのは皆様と市の協働で、しかもそれは全部実施できるわけではなく、優先順位をつけることになる。その点も、今後のこの会でチェックしていくという目を持っていただきたい。

(委員) 1点追加したい。羽村を良いまちにしてにぎわいをつくるという意味では、住んでいる人たちが「羽村はこんなに良いものがある」とPRできないと、ただ広告宣伝を打っても限定的かと思う。いろんなところで話

題にされると「一度行ってみよう」となり、一度来たらその良さが味わっていただける。「羽村らしさ」と書かれているが、この中に「羽村らしさ」とは何かというキーワードが無いと。羽村市は、市になった頃は市内でも一番住みやすいまちということで、住民の評価もかなり高かった。最近のデータはわからないが、原点に戻り、「羽村らしさ」とは何か、キーワードを入れた方が良いと思う。

(会長) 方針の②に「羽村らしさ」とあるが、前回、ブランディングが非常に大事だという議論があった。では、ブランドを作るにはどうしたら良いのかという具体的な話になってくる。今日の資料にはそこまでは書かれていないが、この後の提言あるいは計画で、これが具体的にどうなるのかと思うので、今の意見を含めてよろしくお願ひしたい。ほかに意見はいかがか。

(委員) 先程の事務局説明で、資料2の1番下の5点について、市長への提言ということなので「支援が必要」という表現で記載しているとのことだったが、昨今、補助金制度が多くある中で「支援」の性質は同一ではない。給付による直接的な支援が必要な場合もあるだろうが、成長を促すための支援も重要。実際の施策でも、おそらくその性格は二分されると思うので、「支援」という言葉でまとめず、言葉の区別ができないか。

(会長) 時代に適応するために大事だと思う。

(委員) 会議録の9ページの下から5行目、「農商工観のそれぞれの～コンシェルジュのような仕組み、多種多様な情報が集まる場所があったら良いと思う」と意見をしたが、今回の資料1を見ると、「懇談会での意見」の商業に記載されている。これは商業に限ったことではなくて、議事録にあるとおり全体に対しての意見であるので、そのようにまとめてもらいたい。

(会長) 事務局に聞くが、資料が抽象的なのではないかと思う。今後どう進めていくのか、具体的に説明願ひたい。

(事務局) 先ほど説明したとおり、これまで皆様からいただいた意見を整理、分類して、このようなイメージ図のような形で示しているが、当然、これがすべての意見ではない。今後、提言書をまとめていくにあたり、懇談会で皆様から出された意見を施策の種、シーズのような形で捉え、列記していく考えであり、こうした意見を基に具体的な施策を考えていくということでまとめていく。この資料は、提言を文章化する前段の整理ということで、分野別にまとめた意見を踏まえて3点の方針を記載している。これについてもぜひご意見をいただきたく、今回はこのような資料を作成している。

(会長) 本日の会議はこういう認識で、このような考え方で提言をまとめて良いかということが、論点になってくるかと思う。意見をお願ひしたい。

(委員) 意見が3点ある。1点目、資料1と2に記載のある①「新たなチャレンジ」について。ニュアンスとしてはわかるが、例示など具体的な記載がないと分かりにくいと感じた。2点目は、資料2「ニューノーマルへの対応と新分野への進出支援」の記述の中に「カーボンニュートラルやCASEなどのこれまでになかった産業の進展」という表現について。これは「こ

れまでになかった」のではなく、「カーボンニュートラル」は「地球温暖化対応」という言葉で表現されていて、今は「カーボンニュートラル」という言い方をし始めているということなので、「これまでなかった」ではなく「～などへの新たな対応が必要」というように表現を変えた方が良いと思う。合わせて、それらに対応するためとして「生産性の向上」が初めにあるが、実際、これらに対応していくためには、やはり「新たな分野への参入」や「新たな取組み」ということが先に来て、その次に「生産性の向上」とするのが良いのではないかと。3点目は、資料2の右下「市民と産業、行政の多様な繋がりづくり」には、「若い力の活用」といったような言葉を入れてはどうか。いわゆるポストコロナやアフターコロナという中で、若い世代の力を活用していくことは今後の発展につながると思う。既存の概念や仕組みだけではなく、新しいものが必要だということも含めた内容なので、「若い力の活用」のような表現が入ると良いと考える。

(会長) この3つの方針の内容は理解できるか。

(委員) 分かりにくいと感じる。例えば、「新たなチャレンジ」の部分に「若い力を活用した」「これまでになかった新たなチャレンジ、取組み」というような表現が入った方が良いかもしれない。また、「羽村らしさ」の部分に『「羽村らしさ」のブランディング』という言葉があるが、「羽村らしさを持つブランディングを行なって地域資源を生かす」とか、もう少し分かりやすい方が良いと思う。③「市民と産業、行政が繋がり」では、「繋がり」よりも「連携」という言葉の方が良いように思う。また、この「にぎわいを創出する」というのも、「にぎわい」とは交流人口の増加なのか、活発な産業活動ということを意味するのか。この辺りも分かりにくいと感じる。

(会長) もう1つ重ねて質問させてほしい。「イノベーションを生み出し」と記載があるが、イノベーションとは生み出せるものだろうか。それとも、結果として生み出されるのがイノベーションなのか。

(委員) 「イノベーションを生み出し」とは、この後ろに書いてある「新たな価値を創出する」とイコールだと考える。「イノベーション」という言葉を使うことは非常に良いと思うが、意味の捉え方は人それぞれなので、イノベーションの定義を書き込む必要があると思う。

(会長) 重ね重ねの質問への回答、ありがとうございました。

では、前回は地元の方を中心に意見を伺ってきたので、今回は、広域的に連携などに携わっている方々からのお話を伺いたいと思う。

(委員) 産業振興という性格上、商業、工業、農業、観光と範囲が広く、施策も非常に幅広い。こういう大きな計画を実行に移す上においては、事業者などと行政の間に立ち、両方のことを分かってインテグレートできる、コンシェルジュを強化したような役割ができることが、計画実行のベースになると思う。もう1点、外部リソースの積極活用も重要となる。計画実行に必要な、積極的な連携を検討いただきたい。また、参考に確認をさせてほしいが、羽村市は、中長期的に就労人口を増やす視点の1つとして、新しく工業団地の造成をするような可能性はあるか。

(事務局) 新規の工業団地を造成する計画はない。羽村市は市域が狭く、現

状では新規に開発できる場所が無い。既存の工業団地、工業用地の中で工業振興を進めていきたいと考えている。

(会長)1つ質問させていただく。外部リソースの活用やいわゆる連携のコンシェルジュは、計画では盛り込まれることが多いと思うが、形は作ったが実効的には機能していないというところを多数見かけるのも事実。そこを上手く生かせるようにするにはどうしたら良いのか、ご意見いただけるとありがたい。

(委員) 計画ができた時に、ちゃんと腹落ちをしたうえで、事業者の皆さんと行政の間に立って相談を受けたり、事業者のところに直接行ったり、そういうアクティブな活動が出来る方がいると、実際の目に見える形になるので、重要なことだと思う。

(会長) やっぱり中心になる人が重要ということになるか。それでは続いて意見ををお願いしたい。

(委員) 人材の確保という点で発言する。これまでの会議資料にも人材確保について多くの記載があるが、どんな分野でも、どういう職種で人材を確保したいという情報があれば、雇用という面では協力できる。そのためには、速やかに情報伝達されるとありがたい。

(会長) 地域経済の担い手は人材である。市役所との定期的な情報交換などが非常に重要かと思うが、現在の状況はいかがか。

(委員) 現在、地域雇用問題連絡会議という会議体がある。構成団体は、ハローワーク、労働基準監督署、労働行政、市関係部署で、ニーズや現状などを情報共有し、施策に生かしていくことを目指している。会長が言われるような、具体的な内容についても今後取り組んでいきたいと思う。

(会長) そこで上がっている課題があれば教えていただきたい。

(委員) 製造業が産業の中心であった状況が、この資料でもわかるとおり製造業自体が減ってきているということは、羽村市の大きな課題といえるのではないか。この課題の中で雇用を考えていくということかと思う。

(会長) そうすると、第三次産業、サービス業か。ものづくり型の市と思っていたところが、だんだんそういう形ではなくなって来ている。羽村市は郊外型の都市ではあるが、立川や昭島に比べれば条件が悪いというような雇用行動になってきていると見受けられるが、どうか。

(委員) 逆に言えば、立川や青梅等でも製造業は減っているので、意欲ある製造業がまだまだ羽村市にあるということであれば、その周辺の仕事を探している人が羽村市に集まったという展開も、可能性としてはあると思う。

(会長) 今、羽村市や周辺ではどういう求人求職の行動になってきているのか。データに基づいたことではなくても、今感じているところを伺いたい。

(委員) 市単体での動きというところの統計はない。東京労働局管内にハローワークが17あるが、直近の全体での有効求人倍率は1.20で、1人の求職者に対して1.20の求人がある状況。青梅管内では0.94で、仕事を探す人は1人に0.94しか求人がないということ。その中でも青梅管内は福祉産業が求人を中心になっている。しかし細かく見ると、昔からあった製造業もまだある。昨年との比較では、製造業はこのところ伸びてきている。

近隣の 5G 関連の企業では、人が欲しいとするところも複数ある。少なくなっている製造業の中でも魅力のある求人があれば、羽村市以外の人も羽村市に集まってくるというのは当然。業種に関わらず、魅力ある求人、魅力ある企業が育っていけば、そこに雇用が生まれるという必然は変わらない。

ハローワーク青梅の管轄は、4市3町1村。ホームページで各種データを公開している。

(委員) 有効求人倍率について、青梅管内は都内に比べれば一見低く見えるが、多摩地域で1番低いのは立川。それに比べると青梅管内は実は底堅く、製造業が雇用を支えている事実が表れていると言える。自身も製造業を営んでいるが、若い人は製造業のような、理解されていない、知られていない、わからない仕事には入らない。製造業は細分化されていて、自分の仕事は何に役立っているのかわかりにくい部分もある中で、ほかの産業にはない部分として、製造業は未来に存在するものを作ることができるものだと思う。この「未来を作ることができる」部分をどうやってふくらませ、具体策として落とし込んでいくかを考えているところである。

(会長) 羽村市は全産業における第二次産業への依存が非常に高いという特徴があるので、それを良いところとしてPRしていく必要があるのでは。燕や高岡などは、ものづくり産業が集積しているまちとして知られているが、羽村はどうか。雇用を導くためにも、実は大事なことと思う。続いて意見を伺いたい。

(委員) 2点ある。資料2の下の下段5つが提言につながる柱かと思う。工業の分野でも意見を出したが、工業に限らず、コロナ禍を受けて「デジタル化」は避けて通れない状況となっている。デジタル化に乗り遅れてしまうと、どうしても今後の発展、持続が難しくなると思うので、「デジタル化」を意識した計画とできるよう、ぜひ提言に盛り込んでもらいたい。

もう1点は、その提言を踏まえて作られる計画の素案は、懇談会ではパブコメ前に確認できるものと理解しているが、計画の中には各種事業、取組みというようなアクションプランが入ってくると思っている。経済産業局、経済産業省でも様々な施策、先行事例等があるので、関連するところや参考にしてもらえそうな内容があれば、意見交換等させてもらいたい。これは行政に対する意見だが、計画策定においてだけでなく、策定後も引き続き連携をとっていきたい。

(会長) 「デジタル化」は大事なキーワードだと思うが、実際に計画に書き込もうとすると、何を書き込めば良いのかわからないと言う自治体が多く見られる。助言をいただくとありがたい。

(委員) 確かに自治体が「デジタル化」を計画に盛り込むのは、なかなか難しいかと思うが、具体的にはステップがいくつかあると思う。まず、大分減っているとは思いますが、帳簿がまだ手書きであるとか、そうした事業者も少なからずいるとすれば、そうした方々に対して電子化を進めていくための普及啓発がステップ1。次のステップは、実際にそのデジタルツールを使ってみたいというところで、連携した支援をする取組み。関東経済産業局がさいたま市と連携して取り組んでいる事例では、NTTと連携して、

導入しやすいITツールを使ってもらおうということで、市内事業者を回って教えている。次に、そのデータを使って自社の新しい取組みを進める、ITを使える人材を育てていくということも別の地域では取り組んでいる。計画にはできるだけ具体的に書くべきだと思うが、まずは市内事業者のデジタル化を進めるための普及啓発から始めるというようなところを、最低限入れてほしい。

(会長) 続いて意見を伺いたい。

(委員) 「イノベーションを生み出し」という部分について、先ほども意見があったが、TAMA協会も「イノベーション創出支援」を方針に掲げている。同様に「イノベーション」の定義について議論があり、TAMA協会の場合は会員組織の性質をふまえて「自分たちで製品を持っていて、プロダクトイノベーションを起こす」ことを「イノベーションの創出」の定義としている。まず漠然と「イノベーションの創出」があり、具体策として「プロダクト」があり、施策として「製造業製品開発を支援する」に落とし込んでいる。この懇談会で提言すべきところは何かということ、羽村市民、事業者を強くしていくために、産業施策としてどう盛り込んでいくかということと思う。先程の意見にあったように、製造業の事業者の方が「未来をつくることができる」、そのとおりだと思う。

(会長) 今は「プロダクトイノベーション」、つまり、ものづくりのイノベーションの支援についての意見と思うが、一方で、「サービスイノベーション」をどうするのか。難しいところだろうと思うが、ご意見を伺いたい。

(委員) 事例として、いくつかお話しする。例えば、製造業でも、従来の取引先の自動車部品を作る会社はすぐには無くならないが、何年か先に自動車部品そのものがなくなる可能性があると考えたら、新しいことを常に考えておかなければならない。その時に、それを誰に対してやっていくのか。例えば、まったく新しいサービスとして、自分たちがこれまでに蓄積してきたものづくりの職人的な勘やコツを、デジタルのツールを使って見える化して、同業者に展開していきこうという会社もある。実際、見積もりソフトを自社で開発して同業者に展開していくスタートアップを組んでいる例もある。また、クリーニング業では最近、無人店舗が多く見られるが、今はコインランドリーをスマホで予約できる。あのシステムも、実は製造業の方が作ってサービス業として展開しているもの。こうした事例はいくつかあるが、その時に大事なものは他分野連携である。

(会長) そういった他分野連携が出てくると、今までは羽村市に立地していた企業が、他に立地した方がより便利だと考えることもあり得るか。そこは羽村市としてはどう考えたら良いか、示唆をお願いしたい。

(委員) 圏央道により交通の利便性が高まるが、一方では市外へ移転するリスクも高まるということ。羽村市で事業を営んでもらうためにどうするか。羽村市は東京都だけれども、都心に比べたら地価や物価が安いということは当然ある。一方で、「東京都」であるメリットも持っている。

(会長) 農業に関して意見を伺いたい。

(委員) まず、この資料2を見て、一体、農業はどこに入っているのかという印象がある。②「羽村らしさ」を持つ地域資源、ここに含まれているの

か。でも「魅力のある産業を創出する」では、農業は既にある産業だから違うのか。資料1のアンケートの部分に記載もあるが、相続税負担が非常に大きく、25年の間に農地が半分になっていることがデータから読み取れる。産業振興の方向性の中にも、もう少し農業にかかる内容を入れてもらいたい。

資料2右下「市民と産業、行政の多様な繋がりづくり」とは何のことかと市民の視点で考えると、祭や催しものとなるか。チューリップまつりなどには多くの人が集まって来る。「羽村市を訪れる多くの人、羽村市の人と楽しい時間を共有し、交流の輪が広がる」と長期総合計画の部分に記載されているが、そのような意味を含めてこの記載になっているかと思う。

(会長) では、農業の部分はどう記載したら良いか、具体的に聞きたい。農地、農業者、後継者のことを書いたらいいのか、付加価値を上げるための食品加工、販路形成、6次産業化、デジタル化による生産効率の向上とか、色々書きぶりはあると思う。JAにしたまとしては、当然、他との差別化をしないとイケないだろうが、どの程度、具体的に、何を、優先順位としてどうして書くのが良いのか。

(委員) 若い後継者の技術力は高く、かなり評価されている。昨年は農林水産大臣賞を受賞している。そのような、技術力を持っている若い農業者がたくさんいるという辺りを中心に書いても良いかと思う。高糖度のキャベツやにんじんなど、支援をいただきながら開発にも努めている。そうしたことをぜひ書いてもらいたい。

(会長) 参考までに、技術力のある若手とは、今、何戸くらいあるのか。

(委員) 共進会で特別賞を受賞するような技術力を持った農業者が17戸くらいある。

(委員) やはり「羽村らしさ」のキーワードが必要だと思う。農業で言えば、やはり水と花か。規模は小さいが水田があり、少なくなってきたが畑もまだ残っている。農業者が続けることも大事だが、市民やシニアが利用できるような仕組みをつくって、産業のレベルになる使い方を考えたい。また、健康づくりにも貢献すると思う。そういうことをキーワードにしたらどうか。

工業の点では、羽村に昔からある工業団地、産業道路を中心に立地している大手企業と中小企業を連携できるようにする。企業誘致だけでなく、積極的に働きかけて育てないとダメだと思う。

(会長) 羽村の水は工業資源としても使っている。その水を、地下水の涵養とか、きれいにする努力をするというと、これはSDGsの広告になる。ESG投資ということで、投資家が投資する時のカウントが上がることもある。そういうことを配慮した支援も、必要かもしれない。

(委員) 資料1と2を見比べて考えたが、資料1の事業者アンケートの結果の中で、工業の経営上の問題点として、業務の効率化、生産性の向上などがある。資料2を見ると「産業の集積と連携、新たなチャレンジにより、イノベーションを生み出し、新たな価値を創出する」とある。この2つが随分かけ離れているように思う。本当にこれで事業者のアンケートの結果

に伝えられるのか。先程、デジタル化の話があったが、先日、現場を見せていただいた。デジタル化以前は紙で情報をやり取りしており、一日の状況が次の日の朝にわかるような状況だったものが、デジタル化によって各工程にそれぞれ端末があり、ある工程が終わったらその端末のボタンを押すことで、工程表に各工程の状況が集約して映し出される。デジタル化することによって、ここまでできるのかと大変驚いた。現業の現場にニーズがある。新しい産業をつくるのもそれは大事だが、羽村に立地する企業の業務効率化、生産性の向上、何がデジタル化できるのかといったことは、専門家もその目で見ると言うことがすごく大事だと思う。新しい産業を興すということも含めて、新たなチャレンジするというには、企業のニーズをどうやってつかむか、それをどうやって実用化していくか、効率化していくかということが非常に重要。

(会長) ほかにご意見はあるか。

(委員) 「羽村らしさのブランディング」は、今までもやっていなかったわけではなくて、実際に商品化もやってきているが、今までできていない。それを具体的に出来る方策をぜひ提言してほしい。結局「羽村らしさ」は、小ささ、コンパクトであること。羽村市は非常にコンパクトな市なので、それを生かして、市民もお互いに顔が見える、行政も顔が見える取り組みをしたい。商業に関して言えば、顔が見えるというところで、「まちゼミ」をやろうとしているが、商業だけでなく他分野の企業も巻き込んで、今まで入ったことのない会社にも入っていく。そういったことを商工会だけじゃなく全体で取り組みができれば良いと思う。

(会長) ブランディングがうまく行かなかった、顔が見えなくなった原因には何があるか。

(委員) 羽村で「逸品を作ろう」というと、市はだいたい商工会に投げる。商工会の中で検討して、商工会の中でできたものに対して、市もしっかり支援してほしい。やっぱり行政の担当部署が予算をつけて、しっかり儲けもつけるから最後まで商品化しよう、商品化できたらしっかりそれを売ろうと、きっちり道順をつくってもらわないと。今までも何回もやっているが、ほとんど続いてない。

(会長) これはほかの自治体でも同じような状況が見られる。ほかにご意見はあるか。

(委員) 資料1の工業のヒアリングの意見に出ているように、市内企業がお互いを知らないとか、もっと交流をしていくべきということに同感であり、企業間連携に期待したいと思っている。企業が連携することで、お互いの強みをさらに伸ばせたり、弱い部分を補えたりすることで、企業として体質の強い会社になっていけるかと期待している。また、それによって雇用が生まれ、まちの活性化につながると思っている。企業間連携に対するその仕組みや支援策の充実を期待したい。

(会長) 続いてお願いします。

(委員) 「羽村らしさ」とは人の良さだと思う。先日、NHKの番組「ブラタモリ」で玉川上水が紹介されたが、翌日、観光協会に50人位の来客があった。まいまいず井戸も知られておらず、もっとPRしていく必要性を感じ

た。我々が知っていても、市外の人には知らないことがたくさんあると思う。自分も、市内で高糖度野菜を生産していることは、この会議で初めて知った。情報があると、「試食会ができるのではないか」など考え始められる。情報が一体化することが大切。

今日の会議でも工業の話題が多いが、すごく難しい。分かりやすい言葉を使うとか、「分かりやすさ」を意識することは根本的にすごく大切だと思う。分かりやすくする方法を考えてもらいたい。また、若い人が参加できることが大事。この会議でも、若い人が何人かいても良いと思う。会議の仕方にしても、何にしても、もっと新しいことをやりたいと思う。

(会長) 観光について、観光協会では情報提供はするが、観光案内はできないところもある。羽村市ではどのような状況か。

(委員) 事前に連絡いただければ対応できる。

(会長) その仕組みと実際のコースをウェブでPRしている観光地も多い。また、商品の造成はぜひお願いしたいと思うが、それができる人達がいないとできない。状況はどうか。

(委員) 多少はいると思うが、その若い人達を組織化できないことが、羽村市の足りないところだと思う。

(会長) 要するに、皆で何とかしていかなければならないということか。

それでは概ね議論は出揃ったものと思う。追加で意見のある方は事務局に寄せていただきたい。

ただ今の議論を踏まえて事務局で提言案を作成し、次回の会議において本懇談会からの提言を取りまとめることにしたいが、ご異議はあるか。

ー異議なしー

(会長) ありがとうございます。では、次回、実際の提言案が出てくるので、そこでチェックいただきたい。事務局は提言案を作成し、次回の会議までに各委員に配布してください。

本日本日予定されていた議事は、これで全て終了した。円滑な進行へのご協力、ありがとうございます。それでは進行を事務局へ戻します。

3 その他

(事務局) 事務連絡（次回会議日程確認）

それでは、これで本日の会議は終了とさせていただきます。

長時間にわたりありがとうございました。